

今日のトピック 豪州の金融政策は引き続き中立（2018年10月）

失業率と物価は改善を続けているが、その速度は緩慢

ポイント1 事前の予想通り現状維持 全会一致の決定

- 豪州準備銀行（RBA）は、10月2日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置く決定をしました。

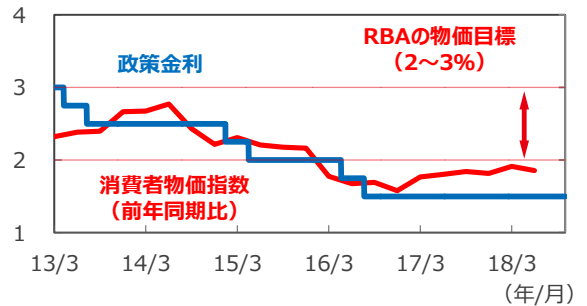
ポイント2 金融政策は現状維持 失業率、物価は緩やかに改善

- 豪州の景気、物価に関するRBAの見解に、特に大きな変化はありませんでした。RBAは、豪州経済について2018年、続く19年とも+3%を僅かに上回る成長を予想しています。
- RBAが重視する物価に関しては、18年4-6月期の消費者物価上昇率が、異常値を除外したトリム平均値で測って前年同期比+1.9%となりました。目標値の下限+2%に接近しましたが、RBAは「今後、電気代等の管理費の一時的な低下が見込まれるため、18年の消費者物価上昇率は想定していたよりも若干低くなるだろう」としています。
- 失業率と物価の見通しは、「今後も改善基調を維持するものの、その速度は緩やか」を据え置きました。金融政策は当面、現状維持が続く可能性が高いと考えられます。

今後の展開 豪ドルは底堅い動きとなろう

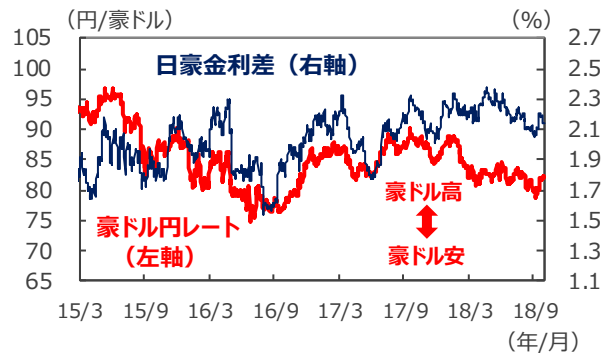
- 政策金利の据え置きは市場の予想通りでしたが、豪ドルの対円相場はやや弱含みの動きになっています（15時現在）。ユーロ安に伴い米ドル高が進んだことが背景になっています。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年4-6月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2018年10月2日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年3月1日～2018年10月1日。ただし、為替の直近値は2018年10月2日15時時点のもの。
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- もっとも、豪州の景気が堅調な拡大を続けていること、日銀の金融政策が緩和姿勢継続なのに対してRBAは中立姿勢を維持していること等を踏まえると、豪ドルは概ね底堅い展開が見込まれます。ただし、米国の保護主義的な通商政策には注意を払う必要があると考えられます。

ここもチェック! 2018年9月27日 米国の金融政策は利上げを継続（2018年9月） 2018年9月19日 堅調さを維持する豪州経済（2018年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。